観光パンフレットにみる路面電車のある都市の価値形成

奥山研究室　09_12184 新宮 光善（SHINGU,Mitsuyoshi）

1. 序　路面電車は明治初期から昭和 30 年代にかけて全国各地の主要都市で運行していたが、自動車の普及や鉄道網の発達に伴い減少し、現在では 17 都市に残っている[1)]。近年これらの都市においては、観光地を巡る都市内交通としての利便性や、そのものの希少性から、路面電車の観光資源としての価値が注目されており、そういった路面電車の様々な価値を他の観光資源と合わせることで、都市それぞれで独自の価値を提示している。そこで本研究では、路面電車のある都市[2)]の観光パンフレットを資料とし[3)]、その言語表現と地図の描画表現から、都市の価値形成の枠組みの一端を明らかにすることを目的とする。

2. 言語表現にみる路面電車の価値の内容

2-1. 着目内容と観光要素　まず、観光パンフレット中の言語表現から、路面電車に関する価値の内容（以下、着目内容）と、路面電車と共に示される都市内の要素（以下､観光要素）を検討した（図 1)。着目内容は、路面電車そのものの性質による内在的価値、及び他からの評価による外在的価値の 2 つから捉え、内在的価値については、「環境にやさしい」といった性能的な価値を表す【機能】、「のんびりと走る」といった様態による価値を表す【状態】、「古い歴史をもつ」といった意味的な価値を表す【意味】の 3 つに分類した（図 2)。また観光要素について『施設』､『構造物』､『街並』､『自然要素』､『文化・活動』､『交通機関』の 6 つに分類し、さらに城や史跡といった歴史的価値をもつものがみられたため､これを｛歴史性あり｝として検討した（図 3)。

2-2. 着目内容と観光要素との関係　以上で捉えた着目内容と観光要素との関係を資料単位で検討した結果（図 4)、【機能】を主に示す資料では、｛歴史性あり｝が過半数を占める場合が多く（7/9)、【状態】を主に示す資料では逆の傾向がみられた。このことから、歴史的価値のある観光資源が多くある場合、それらにより都市の独自性が担保されるため、路面電車は観光要素を結びつけるという機能性にその価値をおかれる傾向がみられるのに対し、歴史的価値のある観光資源が少ない都市では、路面電車の走る様子を、街の風景と共に示したり、車窓からの街の風景を提示することで、街全体の価値の向上を図る傾向にあると考えられる。また、【意味】を主に示す資料では、観光要素の偏りはみられず、また他の着目内容と合わせて提示されることが多く、【意味】は街に位置づく基本的な価値と

図 1. 分析例

図 2. 着目内容の分類

図 3. 観光要素の分類

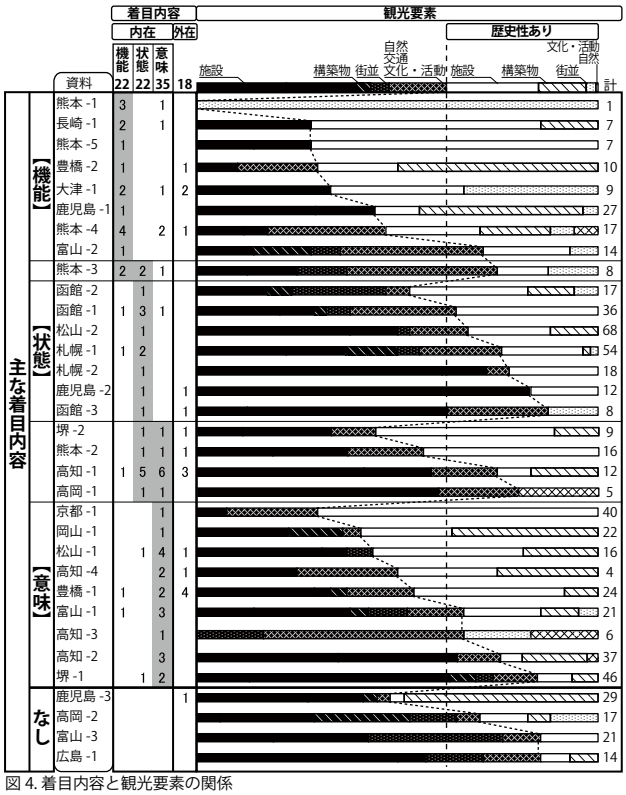

図 4. 着目内容と観光要素の関係

して考えられる。

3. 地図の描画表現にみる路面電車と都市との関係性

次に観光パンフレットの地図の描画表現を検討する[4]。まず色や太さによる路線の強調表現の有無を検討し（図 5)、さらに路線に対する観光要素の分布の範囲を〈全体分布〉、〈部分分布〉に分類した（図 6)。また、地図の描画範囲に対する路線のトリミングの有無についても検討した（図 7)。観光要素の分布と路線の強調表現の関係をみると（図 8)、観光要素の分布が「全体分布」の場合、路線が強調されることが多かった。ここから、観光要素が散在する場合、それらを巡る路面電車が都市の骨格として強調される傾向がみられた。

4. 路面電車による街のイメージ形成　前章から路線の強調表現の有無と路線に対する観光要素の分布によって地図を 4 つに分類し、「着目内容」との関係を検討した（図 9)。その結果、主な路面電車の着目内容が【機能】となる資料では観光要素が〈部分分布〉となるものが多かった。さらに、これらの資料すべてが移動性の着目内容をもち、さらに観光要素の｛歴史あり｝の比率が高かった。このことから歴史的価値のある観光資源が都市の特定の範囲にある場合、特徴的なエリアとその他のエリアとを結ぶ都市内交通としての路面電車の価値が重視される傾向にあるものと考えられる。それに対して、主な路面電車の着目内容が【意味】となる資料では、観光要素が〈全体分布〉となるものが多かった。着目内容の内訳をみると古さをもつ資料が大半を占めたが、観光要素の内容には偏りがみられなかった。このことから都市内の観光資源の分布に偏りがなく、さらにその内容にも特徴的な価値をもたない場合、路面電車の来歴や古びた佇まいといった意味に街の価値を代表させる傾向にあるものと考えられる。また、【状態】を主に示す資料は路線の強調表現があるものが多かった。このことから、路面電車の骨格が強調されている都市は、雰囲気を示すことで、街全体の賑わいを表す傾向があると考えられる。

5. 結　以上、路面電車のある都市について、観光パンフレットの言語表現と地図の描画表現を検討した。その結果、都市内の観光資源が集中する場合は路面電車の都市内交通としての機能に価値をおき、観光資源が散在する場合は歴史性といった意味に価値をおくという 2 つの都市の価値形成の典型を見出した。

註1）中尾正俊・八木秀彰、『路面電車の社会的役割と機能の変容』、広島修大論集、2010 年
2）路面電車のある 17 都市の内、該当する観光パンフレットがみられなかった東京都荒川線と福井市福井鉄道を除いた。
3）本研究では行政及び電鉄会社等の発行する数の観光パンフレットを資料とした。
4）一つの資料に地図が複数ある場合は、路面電車の路線全体が最も大きく描写されているものを分析の対象とした。

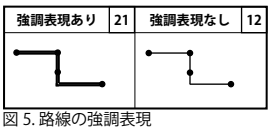

図 5. 路線の強調表現

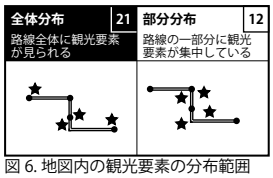

図 6. 地図内の観光要素の分布範囲

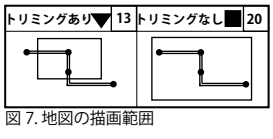

図 7. 地図の描画範囲

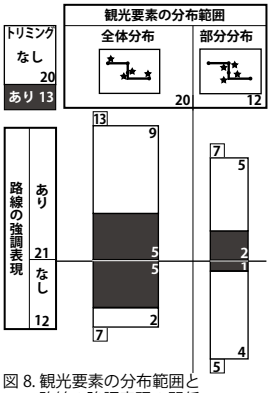

図 8. 観光要素の分布範囲と路線の強調表現の関係

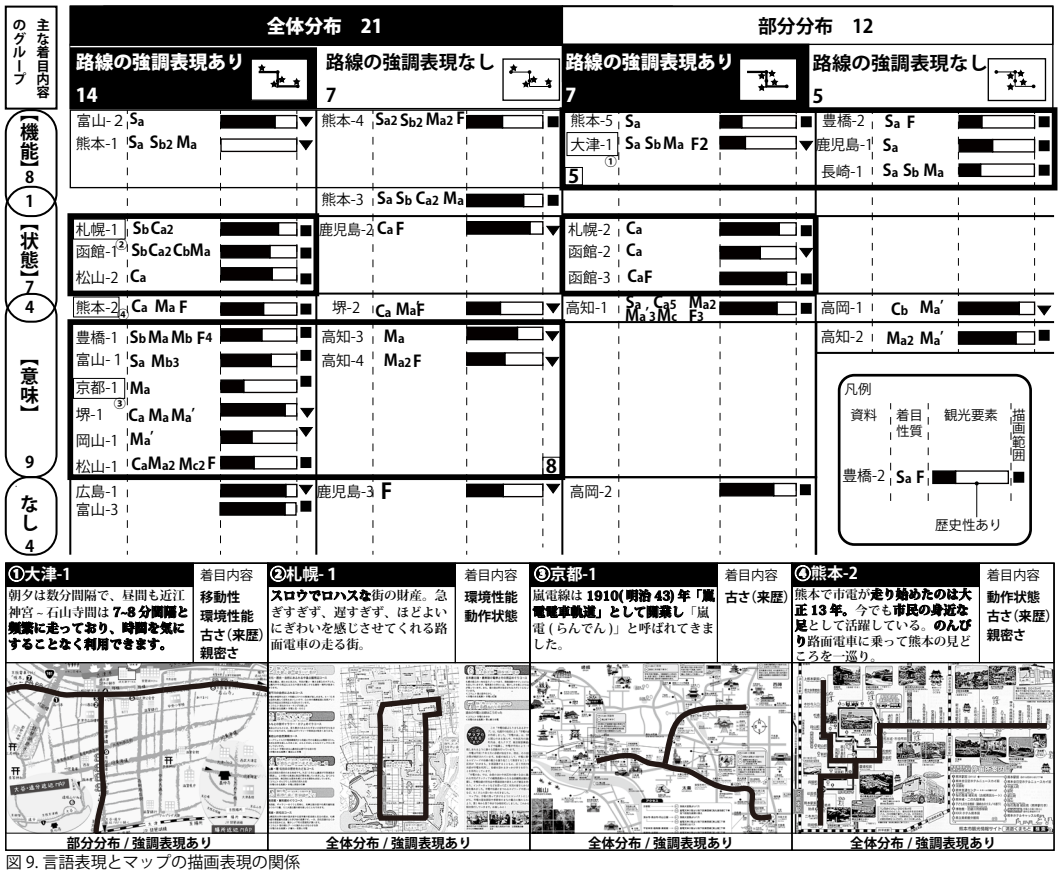

図 9. 言語表現とマップの描画表現の関係